

「第十一回 社会貢献見本市」の  
パネル展示「明大豊島賞」の贈呈

くしくもあの日、三月十一日の東日本大震災が6年前に発生したその日に、毎年恒例となった「第十一回社会貢献活動見本市」(豊島区&しまNPO推進協議会&区民活動センター運営協議会 共催)のパネル展示、シンポジウム、各種パフォーマンス、懇親交流会が開催された。

既に3年前より、我が明治大学校友会豊島支部も当該イベントの協賛団体として、豊島区で活躍するNPO法人や社会貢献活動団体の展示パネルの優秀団体に、賞金として1万円の活動資金を贈呈しているが、今年の明大豊島校友会賞は「NPO法人 アフタースクールの会」へ贈呈することとなった。

アフタースクールの会は、障害者を持つご両親が自らのお子さんや地域の障害者の方々を見守る会として発足させ、大変地道な活動を展開している法人で、今回はその障害者支援の活動がパネル展示で良く表現され努力が見えるとの観

点から本賞の受賞に至った。

夕方から開催の交流懇親会の席上で、アフタースクールの会の伊藤さんに、白砂正人校友会豊島支部長より賞金の授与が行われ、大変喜んで戴きました。

今後、当豊島支部では地域貢献や社会貢献に努力し頑張る団体を応援し、支援し続けることで、我々自身が社会貢献団体としての立ち位置を持続継続することを旨とする。ことを改めて確認する場でもあった。

文責

昭和五十五年商学部卒 柳田好史



明治大学校友会東京都北部支部青年部・女性部発足式

晴天で迎えた、去る二月二十五日の土曜日に明治大学校友会東京都北部支部青年部・女性部の発足式が文京区にある後楽園飯店で八十五名の校友の参加のもと、盛大に執り行われました。

当日は明治大学校友会から向殿正男会長はじめ関係副会長及び他支部の支部長の来賓の方の参加を頂きました。

三浦北部支部支部長の挨拶に始まり、向殿会長からは、青年部・



女性部の発足を契機に今後の校友会活動の益々の発展に繋げていくよう熱い激励の挨拶を頂きました。

乾杯の後、懇親会に入り各地域支部の参加者はお互いに懇親を深めあい、今後の校友会活動に積極的に参加しようとの決意を固めたように晴やかな表情をしてました。

青年部長には練馬区地域支部副支部長の川部修典氏、女性部長には

板橋区地域支部副幹事長の小泉昌



代氏が就任され、お二人とも今後の活動に向けて固く熱い決意表明をされました。

このお二人の部長の決意表明で北部支部青年部・女性部の実質のスタートが本日、切られました。



各地域支部の参加者は地域支部発展の為、次世代を担う方々に奮って参加してもらえようような企画をすべくフォローする姿が見られました。

最後に三森幹事長の指揮のもと円陣を組んで校歌を高らかに斉唱し、お開きとなりました。当日参加された豊島区地域支部二十有余名の皆様には感謝とお礼を申し上げます。(文責 豊島支部長 昭和四十四年工学部卒 白砂正人)

明治大学校友会豊島区地域支部会報

# 豊島支部 NEWS

## 2017年 第55号

<http://meiji-toshima.com>

フェイスブックもチェック!!

### 二〇一七年初春交流会開催

2月11日(土) 18時から新年最初のビックイイベントである「初春交流会」が池袋駅西口の地球飯店で開催されました。「建国記念の日」の祭日にもかかわらず80名近いOBおよび現役が参加して賑やかに行われました。

白砂正人支部長から「新年のスタートに相応しい元気よく大いに交流を深めましょう」と開会の挨拶が行われ、そして昨年大変好評でした江戸消防記念会第四区(池袋)十番



組による江戸情緒溢れる木遣りが披露されました。

その余韻が残る中で東京商工会議所豊島支部鈴木正美会長の乾杯

の音頭で「初春交流会」が始まりました。

司会は、若手のホープである中西大輔幹事と野口陽子幹事のフレッシュなペアで進められました。

なお、毎年参加頂いております高野之夫豊島区長はご公務と重なり残念ながら欠席となりましたが、豊島区役所からは部課長級の校友が多数参加頂きました。そして、ご挨拶と共に豊島区のイベントについて

また、イベントとして毎年演奏等のパフォーマンスを行って頂いていますが、今年は趣向を変えて行わず校友同士の交流の時間を中心にしましたので、ご参加頂いた校友の方々は各テーブルを回りながら会話も大いに盛り上がりました。特に、印象的でしたのが、現役の学生諸君が先輩方に就職活動のご相談をされ

ている方がおり、素晴らしいことに具体的に企業のご紹介を受けている学生もおりました。まさに、豊島区地域支部が目指している「老・壮・青が一体となった校友会」を目の当たりにした次第です。

最後は待ちに待った応援団OBのリードで、参加者全員が肩を組み大きな輪を作って校歌の大合唱で会場が一体となりました。

そして、がらりと雰囲気が変わって、再度、木遣りが歌われて三浦昭生支部支部支部長のリードの二本締めで、新春に相応しい華やいだ雰囲気のまま「初春交流会」はお開きとなりました。

※文責 幹事長 板橋光一

(昭和47年法学部卒)



# 明治魂を伝える

日本政策金融公庫 池袋支店長

## 井原 守 茂

昭和六十年 度 商学部卒

白雲なびく駿河

台：「今から四年

前愛知県の豊橋市

で参加した校友会



東三河地域支部の総会のフィナーレで二十五年ぶりに校歌を大合唱したとき私の目からは涙があふれて止まりませんでした。

昭和56年4月あこがれの商学部に入学するため長野から上京してきた私は八幡山のラグビー部グラウンド近くのアパートに住み明大生としてのスタートを切りました。

日本武道館での入学式ではオープニングで明大オーケストラが演奏する松田聖子の「チェリーブラッサム」に胸の高まりを覚えたことは今でも鮮やかな記憶です。当時、明治は橋爪、瀬下、砂村の日本代表3人を擁するラグビー部、栗山（のちに住友金属）、平田（阪神で大活躍）を擁する野球部ともに絶好調で1年から2年生当時は神宮や秩父宮に授業そ

つちのけで通い、勝つても負けても歌舞伎町に繰り出してコンパで盛り上がる、そんな学生生活を送っていました。

商学部のゼミは3年生からでしたが、ゼミは難関で学生の半数しか入れないため入室試験の直前はさすがに勉強しました。そして第一志望だった故江田三喜男教授のマーケティングゼミになんとか合格することができました。春休みの課題はマイケルポーターの「競争の戦略」を読破してサブノートを完成させることでした。渡された本はさすがに原書ではなく訳本でしたが、それでも難解で内容はさっぱりわからず本当に苦労しました。

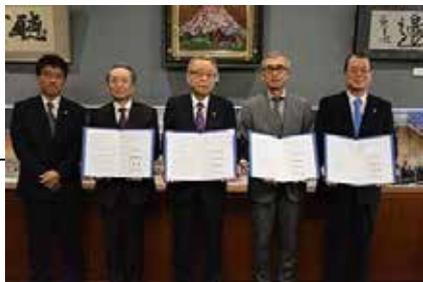
3年生の最初のゼミで江田先生は私たちに「経済学とはどのような学問か」と問いかけられました。しばらく沈黙が流れましたが、私はあてずっぽうで「最適化を目指すことですか」と言ったところ、先生は大きな声で「そのとおり、よく言った」とほめてくれました。この思い出は今でも学生時代の宝物の一つです。そしてなんといつても妻との出会いも江田ゼミ。明大と江田先生には感謝しかありません。

昭和60年4月に私は現在勤務する日本政策金融公庫の前身である国民金融公庫に入庫しました。東京支店を振り出しに伊那、吹田、本店（人事部など）、千住、札幌、本店（経営相談室）、

高松、長岡、豊橋、池袋とこれまでの32年間、延べ13か所の転勤をしてきました。

本店の人事部勤務時代は総合職の採用や研修担当となり、母校での会社説明会にも行かせていただきました。あの頃（平成7年から10年）に採用した後輩たちも今や立派に課長など要職についておりその活躍ぶりは頼もしい限りです。

平成25年4月、豊橋支店長として赴任した時、ごあいさつに伺った豊橋商工会議所では校友会東三河地域支部長で豊橋信用金庫の理事長でいらつしやうした吉川一弘会頭から



金融機関として果たすべき役割の一つに地方創生への貢献があります。昨年、豊島区とは巢鴨信金さん、東京信金さんとともに「地方版総合戦略 まち・ひと・しごとにかかる業務連携の覚書」を、大正大学とは「地域創生にかかわる産学連携の覚書」を締結しました。（左上・写真）

そして現在、豊島区とは創業支援をはじめ介護や子育て、空き家対策といったソーシャルビジネスの支援に連携しながら取り組んでいます。また大正大学では地域創生学部の非常勤講師として「地域起業論」の講義も担当させていただいております。

聞いていますよ。明治なんだってね。校友会に入つてよ。」と一言。これが私にとって本格的な校友会活動の始まりです。東三河地域支部は愛知県の豊橋市、豊川市、蒲郡市、田原市といった地域からなりますが、この地域にも各界で活躍されている先輩諸氏がとても多いことを知り、「これはみつともないことはできないな」と思いました。その一年後には、なんと江田ゼミの後輩が某大手信託銀行の豊橋支店長として転入してきて不思議な縁の強さも感じました。

おかげさまで池袋支店長としては2年が経過しました。日本公庫には政策

今、わが国の地域創生を実現するためには「産・金・学・官」の連携が不可欠であり最も重要なカギを握っています。とてもうれしいことにそのいずれの分野にも明治OBは大活躍されており、どの会合にも出席してもすぐにOB・OGに巡り合うので、種々のミッションを果たすうえでこんなに心強いことはありません。これからは豊島区地域支部のみならずにご指導やアドバイスをいただきながらこの地域の発展のため精一杯取り組んでいきますので、どうかよろしく願います。

# お店・会社紹介

## 「菓一・魚公」

東京を代表する商店街として人気の街巢鴨には、三つの商店街があるのをご存知でしょうか。

これまでこの会報でも「巢鴨地蔵通り商店街」「巢鴨駅前商店街」から多くのお店、OBをご紹介させて頂いてきましたが、今回はこの二つの商店街から山手線を挟んで反対側（内側）に広がる「菓一商店会」に、創業七十年の老舗鮮魚店「魚公」ご主人、田中文人さんを



んを尋ねました。

### 【取材

昭和六十年法学部卒 島村高彦、  
平成十九年商学部卒 島倉仁志】

田中さんは明大中野高校出身、明治大学は昭和五十三年ご卒業。また次男の耕太さんも明治中学・明治高校・情報コミュニケーション学部（平成二十二年卒）と親子二代にわたる校友でいらつしやいます。

「昔ながらの魚屋ですよ」とおっしゃる文人さんは二代目のご当主で、現在母上の信子

さん・姉の久子さんと三人で店を切り盛りされています。信子さんは現在八十九歳！ショーケースのお魚に負けないフレッシュユな笑顔で毎日お店に出ておられます。

巢鴨駅周辺にはサ



ミットや西友といった大型店も軒を連ねますが、新鮮さが自慢の「魚公」さんは、毎夕

賑わっています。新鮮な魚を厳しく吟味して仕入れ、その日のうちに売り切ってしまうそうで、これが舌の肥えた地元のお客さんから長年支持されている理由ですね。また駅徒歩三分ということもあり、新鮮なお刺身を求めて遠方から車で買物にいらつしやるリピーターも多いそうです。

商学部ご出身の文人さんは、多くの先輩方と同様に「あまり勉強の思い出はない」とのことですが、学生時代に喫茶店レモンに通った十名ほどのご友人とは、年に何度か会い旧交をあたためたり、

趣味のサーフィンに出かけるなど親しいお付き合いが続いているとのこと。紫紺の絆を感じます。

多くの商店街が抱える問題として後継者不足が深刻ですが、ここ菓一商店会でも、次世代の担い手不足に悩むお店が多いと聞きました。今回一緒に取材した、商店会の顧問を務める豊島支部会計監査の島村高彦さんは、商店街活性化のため次男・耕太さんの三代目就任に商店会一同熱い期待を寄せていると語っていました。（筆者注：耕太さんは現在都内一流企業にお勤めで、今のところ家業を承継される予定は無いとのことです。）

### 校友会北部支部総会

#### & 懇親会開催のお知らせ

日時 6月3日 十二時～十五時

会場 文京シビックセンター

26階スカイホール

※東京メトロ・後楽園駅 都営地

下鉄・春日駅 徒歩一分

※懇親会費 五〇〇〇円